

# 新宿区教育委員会会議録

## 令和6年第4回臨時会

令和6年7月25日

新宿区教育委員会

令和6年第4回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和6年7月25日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時30分

場 所 新宿区役所5階大会議室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	針 谷 弘 志	教育長職務代理者	年 綱 和 代
委 員	古 笛 恵 子	委 員	星 野 洋
委 員	鴨 川 明 子	委 員	的 場 美 規 子

説明のため出席した者の職氏名

次 長	遠 山 竜 多	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	坂 元 竜 二	教科用図書 検討委員会委員 (総括指導主事)	池 田 知
教科用図書 検討委員会委員 (指導主事)	井 田 琢 麻	外国語科調査委員会 委 員 長	渡 部 裕 也
音楽科調査委員会 委 員 長	關 口 智 子	技術・家庭科調査 委員会委員長	小 泉 雅 一
指 導 主 事	馬 場 園 和 也		

書記

教 育 調 整 課 教 主	古 市 将 貴	教 育 調 整 課 教 管	大 原 颯 人
------------------	---------	------------------	---------

議事日程

協 議

- 1 令和7年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

---

◎ 開 会

○教育長 ただいまから令和6年新宿区教育委員会第4回臨時会を開会いたします。

本日の会議は全員が出席していますので、定足数を満たしています。

本日の会議録の署名者は、年綱委員にお願いいたします。

○年綱委員 了解いたしました。

---

◎ 協議1 令和7年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、議事はございません。

前回に引き続き、「協議1 令和7年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

また、本日は、教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、教科用図書を専門的に調査した教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席していただいております。

次に、本日の協議の進め方についてです。

初めに、専門的に調査検討を行った教科用図書調査委員会の各教科委員長から、種目ごとに、「学習指導要領の中での目標」、「教科の特性等」、「調査委員会における調査の内容」、「その他評価を決定する上での主な議論」などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会委員から説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

なお、本日協議する各種目の教科用図書については、8月2日に開催する予定の教育委員会定例会で、採択を行うことを予定しています。

それでは、まず英語について御説明ください。

なお、この後の説明については、着座にてお願いいたします。

○外国語科調査委員会委員長 外国語科調査委員会調査の結果について御説明いたします。

配付されております「令和7年度使用中学校教科用図書 調査報告書 英語」を御準備ください。

こちらの資料5枚おめくりいただきまして、学習指導要領の内容について御説明いたします。

初めに、外国語科の目標についてです。項番2、「学習指導要領における教科・分野の目

標等」、【外国語科の目標】を御覧ください。

外国語科の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と設定され、3つの視点で育成していくという目標を掲げております。

第1は、「外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。」です。

第2は、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。」です。

第3は、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」です。

中学校の外国語科においては、言語の役割として、創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面があることに留意し、特に他者とのコミュニケーションに焦点を当てて指導することが重要とされております。

【英語の目標】、(1)から(5)にあるとおり、4技能5領域を育成することが求められているところでございます。

外国語科調査委員会では、新宿区立中学校で学ぶ子どもたちに適しているか、個別最適な学びが充実するようになっているか、教員の授業の質的向上に資するものとなっているかという視点で調査研究を進めてまいりました。

それでは、各発行者の総合評価と特に優れた点や特徴について、各発行者、第3学年の教科用図書を用いて、御報告いたします。

まず、東京書籍です。東京書籍の第3学年の教科用図書を御準備ください。

東京書籍の総合評価はAといたしました。

東京書籍第3学年教科用図書の表紙をおめくりください。

ユニット1から6のテーマを御覧頂きますと、東京書籍は全体を通して幅広い題材を扱っており、新宿区教育ビジョンにもある持続可能な社会のつくり手の育成に向け、優れている

と考えます。

2枚おめくりいただきまして、2ページをお開きください。

2ページ右側に「活動目標、GOAL」と書かれた欄を御覧ください。

東京書籍の特徴といたしまして、ユニットごとに具体的に目指す生徒の姿である活動目標が「何々できる」という表現で書かれております。それぞれのユニットのページにも掲載されております。

生徒の視点では、目標が明確に示されることで、何のためにどのように学ぶのか、ユニットの最後には、どのような姿であればよいのかなどとイメージしやすく、主体的に学ぶことができると考えます。

教員の視点では、目標が明確になることで、教員の経験年数にかかわらず、狙いを明確にした授業が展開でき、授業の質的向上を期待できます。

最後に、ページをお進みいただき、13ページをお開きください。13ページ。白抜き文字で「Round 1」、「Round 2」、「Round 3」の表記がございます。3回視点を交えて、読解のポイントを絞って英文を読む活動が設定されており、英文を適切かつ効率的に読む力を育成できます。

東京書籍は以上でございます。

次に、開隆堂出版です。

開隆堂出版の第3学年の教科用図書をお準備ください。

開隆堂出版の総合評価はBといたしました。

教科用図書の7ページをお開きください。

7ページ下段には、「こんな表現ができる！」というコーナーがあり、単元のゴールではなく、スモールステップでゴールを示しているのが特徴です。

次に、12ページ、13ページをお開きください。

こちらは日本のお弁当を題材にした内容であり、開隆堂出版は生徒の知的好奇心をくすぐるような内容で、興味をもちやすい題材を多く掲載しております。

開隆堂出版は以上でございます。

続きまして、三省堂です。

三省堂の第3学年の教科用図書をお準備ください。

三省堂の総合評価はBといたしました。

72・73ページをお開きください。

各発行者では社会的な問題を取り上げておりますが、三省堂では合理的配慮の提供事例となるような身近な社会問題を分かりやすく取り上げております。

3枚おめくりいただきまして、78ページをお開きください。こちらのページでは、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアを取り上げております。

このように、実在する人物や場面が多く取り上げられているため、言語活動の活発化が期待できると考えます。

三省堂については以上です。

続きまして、教育出版です。

教育出版の第3学年の教科用図書を御準備ください。

教育出版の総合評価はCといたしました。

教科用図書11ページをお開きください。

ページ右上に、「L i s t e n」、「R e a d」と4技能5領域をマークで示し、右下のように、各ページで記載したり、20ページ、21ページをお開きいただきますと、アウトプット活動、こちらがバランスよく各章に配置されているところが特徴でございます。

教育出版については以上でございます。

続きまして、光村図書です。

光村図書の第3学年の教科用図書を御覧ください。

光村図書の総合評価はCといたしました。

教科用図書114ページをお開きください。

光村図書は帯活動と巻末が充実しております。

帯活動として、スピーキング教材やリテリング教材が特設されており、話すことについて幅広く活動に取り組みやすくなっております。

光村図書については以上でございます。

最後に、啓林館です。

啓林館の第3学年の教科用図書を御準備ください。

啓林館の総合評価はCといたしました。

63ページをお開きください。

啓林館は、英語圏以外も含めた外国文化の紹介や現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容の取り扱いが特徴的でございます。

啓林館は以上でございます。

以上で、外国語科調査委員会の報告を終了いたします。

○教育長 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

私から質問なんですけれども、最近の英語教科は話すことにかなり重点を置いていると思うのですが、そういった観点から教科書を見たときにはどう感じるのでしょうか。感想でもいいので、一言いただければと思います。

○外国語科調査委員会委員長 話すことの活動が充実するような題材になるようなものや、文章が書いてあるだけでなく、アクティビティが必ず設定されているなど、その点については各者ともに充実していると思っております。

以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○古笛委員 各教科書の取り扱い語数について伺います。

1・2・3学年を合計して、東京書籍が1,786です。他発行者で多いところだと2,467ということで、七、八百、取り扱い語数が違うのですが、この点は何か教える先生方として気になるところはあったでしょうか。

○外国語科調査委員会委員長 外国語科の調査委員会の中では、語数のことについて特に話題には上がりませんでした。

実際の授業の中では、副読本や単語帳で語数を補っているところがございますので、特にそういった御意見はありませんでした。

以上です。

○教育長 よろしいですか。

○古笛委員 はい。

○教育長 ほかによろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、次に、音楽の一般についての御説明をお願いいたします。

○音楽科調査委員会委員長 音楽科調査委員会調査の結果について説明いたします。

資料「調査報告書 音楽（一般）」を御覧ください。

初めに、【音楽科の目標】についてです。

音楽科の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、

生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を3つの視点で育成していくという目標を掲げています。

1つ目は、知識及び技能です。

2つ目は、思考力、判断力、表現力等です。

3つ目は、学びに向かう力、人間性等です。

音楽科の特性として、表現及び鑑賞の幅広い活動を継続的に深まりをもつて行うことで、音楽科で育成を目指す資質・能力が徐々に育まれるところがあります。

そのため、第2学年及び第3学年は、生徒や学校の実態などに応じた弾力的な指導を効果的に進めることができるよう、【学年の目標】と内容をまとめて示しています。

調査の対象となる教科書は教育出版、教育芸術社の2社で、合計8冊です。

音楽の教科書は、音楽（一般）、（器楽合奏）に分かれており、音楽（一般）では、歌う、作る、聞くといった歌唱・創作・鑑賞の学習を中心とした内容となっております。

次に、各発行者の総合評価と特に優れた点や特徴についてお話しいたします。

本調査委員会では、思考力、判断力、表現力等の視点を重視して調査を実施いたしました。全て見ると長くなりますので、ポイントを中心にお話をさせていただきます。

1つ目の発行者は、教育出版です。

教育出版、音楽（一般）の総合評価はBといたしました。

まず、教育出版の「音楽のおくりもの」2・3の上、こちらを御覧ください。

教育出版の主な理由といたしましては、図での示し方が視覚的に分かりやすく工夫されております。例えば、この教科書の8ページから9ページの「学習MAP」には、歌唱・創作・鑑賞の領域と学習の流れ、題材の目標や曲名、ページ数等が示され、領域同士の学習のつながりが分かりやすく整理されています。

同じく、この教科書2・3の上の52ページを御覧ください。

こちら左下には、本区にあります矢来能楽堂が掲載されておりますが、このように写真など豊富な資料を多用しながら、子どもたちが興味をもって学べるよう工夫がされています。

以上のような点が優れていることから、総合評価をつけさせていただきました。

続いて、2者目の発行者教育芸術社についてです。

教育芸術社、音楽（一般）の総合評価はAといたしました。

まず、教科書の、こちらのほうは「中学生の音楽1」を御覧ください。

8ページ、9ページを御覧いただきますと、各学年の発達段階に沿って幅広い題材が系統

立てて配列されており、教員が基本的な流れを押さえながら発展的な内容を取り扱い、生徒の興味・関心を引き出すことができる工夫がされていることが分かります。

また、同じく音楽1の32・33ページ、「学びのコンパス」がございます。こちらは、自分の考えや表現を記入したり、話し合い活動をしたりできる内容の工夫がされています。

また、吹き出しや二次元コードからヒントを得ることもできます。

さらに、全体をめぐっていただきますと、鮮やかな色や大きなサイズの写真により曲の情景や歌詞の理解を補うことができることもお分かりいただけるかと思えます。

特に、楽譜の文字が大きく読みやすい点、改行や改ページにおいて、演奏や歌唱がしやすい配慮がされ、使いやすい仕様となっています。

以上のような点がすぐれていることから、総合評価をつけさせていただきました。

これで、音楽（一般）についての音楽科調査委員会調査結果の説明を終わります。

○**教育長** 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 特に御意見、御質問がないようですので、続いて音楽の器楽合奏についての御説明をお願いいたします。

○**音楽科調査委員会委員長** 続きまして、器楽合奏の教科書に移ります。

資料「音楽（器楽合奏）」を御覧ください。

音楽科の目標・特性・評価の視点については、先ほど音楽（一般）で述べたとおりです。

器楽合奏といっても様々な楽器があります。どちらかの教科書をめぐっていただきますとお分かりいただけますが、琴や太鼓などの和楽器、リコーダーやギターなど様々な楽器の奏法や技能の学習に特化した内容となっています。

初めてその楽器に触れる生徒のほうが多い場合もあることから、楽器の部位の名称、持ち方、姿勢、奏法などの手ほどきがあり、簡単な練習を経て、短いフレーズや曲を演奏していくといったような段階を踏めるように構成されております。

それでは、1つ目の発行者、教育出版の器楽合奏の教科書に移ります。

教育出版、器楽合奏の総合評価はAといたしました。

主な理由といたしましては、まず、6ページ・7ページの目次を御覧いただきますと分かりますように、各学校の実態やカリキュラムに合わせて教材を取り上げることができる内容となっており、本区の多様な生徒の実態に合わせて幅広く選択できます。

続きまして、45ページを御覧ください。

真ん中のほうに写真がございまして、琴の奏法<押し手>が載っておりますが、微妙な加減の琴であっても、同じ大きさの写真を並べたり、糸の色を変えたりしています。このように、生徒にとって理解しやすく、また、教員にとっても教えやすい工夫が随所にされています。

以上の点が優れていることから、総合評価をつけさせていただきました。

続きまして、教育芸術社の器楽合奏の教科書に移ります。

教育芸術社の器楽合奏の総合評価はBといたしました。

こちらの教科書、同じく6ページ・7ページの目次を見ていただきますと、学習指導要領の指導内容を適切に学べる和洋混合の教材を取り入れていることが御覧いただけるかと思えます。

それから、もう少しページをめくっていただきまして、44ページ、左下写真のように、中学生の音楽の鑑賞教材とリンクさせるなど、配列の工夫も見られます。

以上の点が優れていることから、総合評価をつけさせていただきました。

以上で、器楽合奏についての音楽科調査委員会調査結果の説明を終わります。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 それでは、私から質問させてください。

器楽合奏の両発行者ともですが、器楽といった科目について、たくさんの楽器が掲載されており、昔と違って、これを中学生が全部やるのでしょうか。各学校で違うかもしれませんが、授業で実際に演奏する機会が多いと思われる楽器、これとこれは必ず使用するものがあれば、教えていただければと思います。

○音楽科調査委員会委員長 リコーダー、ギター、そして、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓は共通していると思います。

まず、和楽器は必ず履修することになっておりますので、この中のどれかの和楽器をやることになっていきます。

新宿区の場合ですと、琴が各学校にあり、貸し借りをしておりますので、新宿区内においては、琴、箏です。こちらを一般的にやられていると思います。

そのほか、適宜、先生方のお考えであったり、学校にあるもので考えたり、また子どもの

実態を踏まえて、年間計画に沿って進めていくということになります。

○教育長 ありがとうございます。

そうすると、掲載してあるけれども演奏しない楽器は、何か触れる機会があるのでしょうか。

○音楽科調査委員会委員長 中学校の3年間で学習しない楽器は、残念ながらたくさんあるかと思います。

例えば、篠笛であったり尺八であったりというところは、楽器自体がない、または、1人1個持たなければできないけれども、それを買わせることはしていないといったことがありますので、3年間の中で学習しないこともあります。

ただ、幅広くこういった楽器があるということを知ることが大切なことであり、将来的に音楽をやっていくという視点では、幅広い楽器の紹介があるということは大切なことだと考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに何か御質問ありますでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 特になければ、次に、技術・家庭（技術分野）についての御説明をお願いいたします。

○技術・家庭科調査委員会委員長 技術・家庭科調査委員会の調査結果について御説明させていただきます。

初めに、技術・家庭科の目標についてです。

技術分野の目標は、技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を3つの視点で育成していくこととございます。

3つの視点といたしましては、1、知識及び技能、2、思考力、判断力、表現力等、3、学びに向かう力、人間性等です。

また、冒頭に申し上げました技術の見方・考え方ですが、生活や社会における事象を技術との関わりの視点で捉え、1、社会の要求、2、安全性、3、環境負荷、4、経済性に着目して、技術を最適化することとございます。

技術分野はものづくりを行う教科のため、単に知識と技能を高めて精巧に物を作ることを目的とした教科と捉えられがちですが、単に何かを作る活動ではなく、技術に関する知識や

技能を活用して、生活や社会の中から技術に関わる問題点を見出し、課題を設定し、解決策が最適になるよう設計・製作を行い、評価・改善を加えながら問題を解決していく活動を行うことが重要な教科です。

次に、各発行者の総合評価と特に優れた点や特徴について御説明いたします。

本調査委員会といたしましては、子どもたちに生きる力を育ませる上で、何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶかの視点を重視して調査を実施いたしました。

まず1つ目の発行者は東京書籍です。

東京書籍の総合評価はBといたしました。

主な理由といたしましては、教科書の冒頭にガイダンスが設けられており、中学校3年間の見通しを持って学習に取り組める構成になっている点です。

具体的には、教科書の22ページをお開きいただきますと、見開き左から右に向かって、この教科でどのような学習をするのか、3年間見通しをもって進められるような構成になっております。

技術で求められている問題解決のためのものづくりを、豊富な問題解決例の提示とともに、問題解決の道筋が見える紙面のデザインとなっているのが特徴でございます。

また、72ページをおめくりいただきますと、これは1章でいう一つの例ではございますが、冒頭に3コマ漫画が取り入れられてございます。こちらは、身近な生活での困り事、課題を見つけることが苦手な生徒にとっても、この3コマ漫画によってイメージがつかみやすいような工夫が施されています。

以上のことから総合評価をBといたしました。

次に、2つ目の発行者、教育図書でございます。

教育図書の総合評価はAといたしました。

主な理由といたしましては、「スキルアシスト」という別紙を御覧いただきたいと思いますが、工具の正しい使い方等の基礎的な技能が、この別冊「スキルアシスト」で、豊富な写真や図によって解説されている点です。

製作や生物育成に必要な基礎的な技能が丁寧に解説されているだけでなく、実習において重要なポイントやお手本が写真で提示されております。

生徒は、自身の実習結果と比較することで、自ら技能を評価・改善することができます。理想の結果があらかじめ示されているということは、生徒にとっても目標を明確に掲げることができ、個別最適な学びの実現に役立つとともに、授業へ取り組む姿勢や態度の伸長への

効果が期待できます。

また、別冊だけでも実施をサポートする役目を有するので、生物育成のような外で活動する授業においても、生徒にとっては荷物の軽量化につながると考えます。

教科書のほうの36・37ページを御覧いただけますでしょうか。

今御覧いただいております36・37ページが一例ですが、課題の冒頭に問題解決のステップごとに4コマ漫画が掲載されております。生徒が主体的に問題解決に取り組める工夫が施されていると捉えております。

さらに、各章の項目ごとに掲載されています「見つける」と教科書では記されている項目ですが、こちらは1コマ漫画で表示されており、生徒の興味・関心や疑問を引き出すとともに、これから学ぶ内容や考えるべき視点等がつかみやすく、見通しをもって学習活動に誘導する効果があると考えております。これは、新たな学習に取り組む際の導入に有効的であり、小グループで話し合う場面につなげられることから、対話的な授業の実現が期待できると考えます。

以上のことから、総合評価をAといたしました。

そして、3つ目の発行者開隆堂出版についてです。

開隆堂出版の総合評価はBといたしました。

こちらは、例えば、29ページを御覧いただけますでしょうか。

学習の節目で「技術の見方・考え方」の定着を図るために、既存の身近な製品を例に丁寧に解説されている点です。

現在御覧いただいている29ページはパソコンラックが示されておりますが、この「技術の見方・考え方」、つまり、「社会からの要求」、「安全」、「環境」、「経済」の4項目において、しっかりその4項目を押さえるためのガイダンスが設けられております。これも生徒にとっては分かりやすい言葉で解説されており、後のワークシートにもつながる流れの展開となっております。強いては、生徒の個別最適な学びの実現に役立てられるような構成となっていると考えます。

以上のことから、総合評価をBといたしました。

以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 特にないようですので、続いて、技術・家庭（家庭分野）についての御説明をお願いいたします。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 技術・家庭科、家庭分野の調査委員会調査結果について御説明させていただきます。

初めに、技術・家庭科、家庭分野の目標についてでございます。

家庭科の目標は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を3つの視点で育成していくことでございます。

3つの視点といたしましては、1、知識及び技能、2、思考力、判断力、表現力等、3、学びに向かう力、人間性等でございます。

また、冒頭に申し上げました生活の営みに関わる見方・考え方ですが、家庭や家族、衣食住、消費や環境などに関わる生活事象を、1、協力、協働、2、健康、快適、安全、3、生活文化の継承・創造、4、持続可能な社会の構築の視点で捉え、生涯にわたって自立し、共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することでございます。

家庭分野は、生活を工夫し、創造する教科でございます。

生徒が家庭・家族や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどの一連の学習過程を効果的に取り入れることが資質・能力の育成につながります。

次に、発行者の総合評価と特に優れた点や特徴について御説明申し上げます。

本調査委員会では、子どもたちに生きる力を育ませる上で、何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶかの視点を重視して調査を実施いたしました。

まず、1つ目の発行者は東京書籍です。

東京書籍の総合評価はBといたしました。

主な理由といたしましては、学習の一連の流れがつかみやすいページのレイアウトになっている点でございます。

まず、伸ばしたい資質・能力を明確に示された「目標」、そして、学習内容への関心を高めるための「導入」、教科書上では「レッツスタート」という表記で記されております。その節で学習する内容を明確に捉えるために学習課題が記され、「本文」、生徒の主体的・対話的に取り組む活動を補うための「活動」、そして最後に、次の学習に狙いを定めた「まとめ」という順番で、一連の流れが見やすいレイアウトになっており、どの項目、どの編にお

いても統一されているところが特徴的でございます。

また、性別や、国籍、世代を超えて、共生の視点を重視し、ダイバーシティへの配慮が随所に施されています。

こちらは、例えば、270ページを御覧いただけますでしょうか。

270ページには、某制服業者の職員の方のインタビュー記事がございます。このように、制服と捉えましても、性差のない制服という形で列記されているところが特徴的かと思えます。

そして、68ページには、食品の押さえ方が中段に載っております。これが、右利き用だけでなく、左利き用というふうに、両利きの写真が載っているところも配慮されているところだと思います。

そのほか、挿絵の中にも、家族と捉える図におきましても、ただ単に子どもと高齢者だけではなく、車椅子を利用されている方、もしくは外国人の方など様々な立場の方が図として起用されているのが、特徴的でございます。

次に、2つ目の発行者、教育図書についてでございます。

教育図書出版の総合評価はAといたしました。

主な理由といたしましては、問題解決的な学習がしやすい構成となっている点でございます。

各章の項目ごとに、問題解決の入り口として、生徒の身近な生活の一場面を1コマ漫画で掲載されており、「なぜ」、「どうして」の疑問を引き出す効果が期待できるとともに、見つめる、学ぶ、振り返るのステップの提示により、問題解決的な学習の流れが明確に示されております。

これも1例を挙げさせていただきますと、16ページを御覧いただけますでしょうか。

「家族の一員としてできることを考えよう」の大きなタイトルの右側に、「見つめる」という1コマ漫画がございます。親子の会話といいたしでしょうか、身近な生活の一場面でございますが、お母様が「お弁当作って」、「ゴミを出して」、「洗濯して」という吹き出しに対して、子どもは、「朝ごはんまだ？」という会話の本当に身近な一場面です。この場面を通して、家族の一員としてできることは何だろうか、子どもにまず課題提起をして、考えさせるきっかけになると捉えています。

また、章末には、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に沿って、生徒が学習を振り返ることで、指導と評価の一体化が分かりや

すく示されております。このことは生徒にとっても目標の設定がしやすく、授業へ取り組む意欲が高まり、求められている資質・能力の伸長の成果が期待できると考えます。

さらに、117ページを御覧いただけますでしょうか。ハンバーグステーキの調理のページです。

117ページの作り方なのですが、日頃ウェブページやスマートフォン等の縦スクロールの目線に慣れている生徒の実態に即して、調理や制作実習の手順の写真が縦に並べられているというのが特徴的でございます。生徒にとっては先を見通して学習に取り組むための一助となると考えております。

以上のことから総合評価をAといたしました。

そして、3つ目の発行者、開隆堂出版についてです。

開隆堂出版の総合評価はBといたしました。

主な理由といたしましては、個に応じた課題と実践を目指して、多様な取組や事例、学習内容に関連する職業についている方のインタビューなど、本文に関連する参考資料が豊富に掲載されている点でございます。

こちらにも幾つか例を御紹介させていただきます。

31ページを御覧いただきますと、様々な立場の方々の経験談といたしまして、「ヤングケアラーの声」という形でお一方のインタビュー記事が掲載されております。

1枚めくっていただくと、また、別の「里親のもとで育つ」というタイトルで一経験談のお話。その下には「先輩からのエール」ということで、様々な立場の方からのお話などが掲載されている。このような記事がとても豊富に扱われております。

そのほかにも、33ページです。「地域の取り組み」において、全国的にもこのような取組をしている地域がありますよという紹介であったり、76ページには同年代である「中学生の取り組み」が紹介されたりしています。

本文に関連する参考資料がとても豊富であることが、開隆堂出版の特徴かと思えます。

また、生活の身近な疑問を、図や写真に加え、クイズやQ&Aで取り上げており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるように配慮されております。

Q&Aについては、例えば128ページを御覧いただきますと、調理実習の生姜焼きのページがございます。その下段に、「調理方法Q&A」という項目がございます。 「なぜフライパンを熱してから油を入れるのか」など、生活を豊かにするために、ただメニューをこなす、調理をこなすではなく、より良いものに仕上げるためにはどうしたらいいのかといった

ことが、生徒の興味・関心を引き出すためのQ & Aとして、掲載されてございます。

以上のことから総合評価をBとさせていただきます。

以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

○**星野委員** 幼児の遊び等について質問があります。

私は小児科医なのですが、幼児の遊びというのは社会性を獲得するなどに大切なものとされ、世間では遊びと称してスマートフォンやタブレットを子守りの道具として使う行為が多く見られ、社会問題となっております。

教育図書の教科書52ページには、自分にはスマートフォンに見えるものを持った幼児の写真がございます。「デジタルおもちゃ」と説明されています。

子どものメディア接触は、現在、多くの場面で見られていますが、子どもの成長発達に問題を来すことは指摘されています。

1つは、保健体育の教科書にも載ってございましたけれども、前頭葉、特に前頭前野の発達を阻害し、理性や情緒の発達に障害を来すと言われております。

2つ目は視力障害です。

就学時健診などで実感されていると思いますが、子どものメディア接触が増えた頃から極端に視力の悪い子どもが増えています。

先日の新宿区学校保健会大会で慶応大学眼科の四倉先生もおっしゃっていましたが、小児の長時間のメディア接触は眼球の変形を来し、視力障害を来します。

3つ目は言葉の遅れです。

私は小児科医として1歳半健診を行っておりますが、子どものメディア接触が増えた頃より、本来1歳半で有意語が五、六個言えなくてははいけません、最近では有意語が少ない子や言えない子が増えております。

もちろん、自閉症などの疾患によるものもありますが、メディア接触の少ない子は比較的言葉の発達が問題ない。または、メディア接触をやめることによって、1か月程度で急速に言葉が増えるお子さんもおりますので、メディア接触が原因ではないかと思っております。

このように、子どものデジタルコンテンツ、中でもスマホなどのメディアで遊ばせることは子どもの発達に悪影響を与えるものとして、日本小児科医会ではできるだけ接触を防ぐと警鐘を鳴らしております。

そこで質問ですが、今回、調査委員会の教育図書の評価はAとなっていますが、この写真についての検討はなされたのでしょうか。もしできましたら、委員長のコメントもいただけたらと思います。

以上です。

**○技術・家庭科調査委員会委員長** 今、小児科の先生というお立場から御指摘ございました点について、人体に与える影響等は我々ももちろん気にしているところでございます。

御質問にございました、調査委員会でスマートフォンを持っている幼児の写真や、その取り上げられている図に関しての議論というのは、正直ございませんでした。

ただ、現在、学校でもタブレット端末が導入されており、スマートフォンを手にする・しないの判断は、家庭に委ねられている部分があるのも現状でございます。

言い換えますと、学校が余り家庭の部分まで、何歳から持つようにすれば良いか、持たせないほうが良いかというところまでは踏み込めていないというのも現状でございます。

そうであれば、学校としていたしましては、スマートフォンの正しい使い方であったり、こういったところは使い方としては気をつけたほうが良いであったりなど、また、教科書にも注意喚起のページがあったかと思います。そういったものを用いて指導を行っていくことを考えています。

もちろん、家庭科だけではなく、技術科でも情報モラル教育、それから、学校全体といたしましても、警察もしくは通信会社のような専門家を招いての講演と同時に、二部構成といたしまして、地域の方や様々な立場の方との現状を踏まえた情報交換というのも、年内に計画をして、実施しているのも現状でございます。

駄目と言うより、どのようにスマートフォンを正しく安全に使っていくか、専門の方々等の御意見をいただきながら取り上げていくことが、我々に課せられた使命だと考えております。

以上です。

**○星野委員** ありがとうございました。

先ほどおっしゃられたのは55ページの「参考」欄に書いてあるのですが、正直、この絵に対しての説明としては少々弱いと思います。後でも言うつもりだったのですが、これは教科書の本編に載っている写真ですので、かなり影響力は大きいと思います。

基本的に、3歳までの子どもにはメディアは見せるべきではないというのが小児科医の立場でございますので、御理解をお願いします。

以上です。

○**教育長** ほかにいかがでしょうか。

今の星野委員の質問に関連して、そういった御指摘がある中で、学校のタブレット端末を含めて、どのように使わせたら良いのかというのは、学校で、今、指導されているのでしょうか。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 当然ながら、学校現場では、使っている以上は同時進行で指導をしております。

また、通信会社との連携も図っており、接続時間が異常に長く、通常の勉強外で使っていた場合は、使い過ぎではないですかという形で、事務局から御連絡いただき、個別に指導しております。

○**教育長** ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** ほかに御意見、御質問がなければ、これで「学習指導要領の中での目標」、「評価の特性等」、「調査委員会における調査の内容」、「その他評価を決定する上での主な議論」などについての質疑を終了いたします。

続いて、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会委員から種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、まず英語について御説明をお願いいたします。

○**教科用図書検討委員会委員** それでは、英語についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのは東京書籍で、10校中8校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は東京書籍が総合評価でAでした。

検討委員会では東京書籍をA評価といたしました。

その理由・意見として、5領域の中で、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」を重視している点や、身近な話題を取り上げている点が評価できる、多様な文化や価値観への気づきを促す「ダイバーシティメモ」がある点などが評価できるなどの意見が上げられておりました。

また、検討委員会では、他発行者に関する意見として、開隆堂出版は生徒の興味・関心を駆り立てるような題材が用いられており、各題材の記載が充実しているなどが良い点として

上げられておりました。

最終的に、検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が最も多く、調査委員会でも評価のよかった東京書籍をA評価といたしました。

以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたらお願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 特になければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の意見を確認したいと思います。

年綱職務代理者からお願いします。

○年綱委員 英語の教科書についてですが、登場人物が自分と重なって、ストーリー性がある、教科書が面白くなったなど感じる発行者がいくつかありました。3年間で完結するので、子どもたちもきっと楽しく興味をもっていくのではないかとも思いました。

特に、東京書籍は小学校で学んできた英語の積み重ねの上に、1年生は会話重視の内容で、学年が上がるにつれて、日常から社会の動きを理解しながらの内容で会話を深めていくのではないかと思いました。

英語を学ぶのではなく、英語を使って他教科や社会情勢、国際社会を理解し、社会の中の1人であることを自分の言葉で表現していくのではないかと思います。

裏表紙にコメントがありまして、「英語でつながる心豊かな体験」、本当に英語教育そのものだなと思い、東京書籍を選ばせていただきました。

○古笛委員 私も東京書籍です。

先ほどお話があったとおり、学校調査、調査委員会、それから、検討委員会とそれぞれ最高の評価がなされております。

特に、今現在、東京書籍を使っておりますが、10校中8校の学校でA評価がなされているということは、とても使い勝手が良いのだらうと思いました。

私は英語が苦手なので、どれが勉強しやすいかと思いながら拝見したのですが、東京書籍の教科書がずっと入ってきたので、これが良いと思いました。

それから、環境問題とか、防災とか、平和とか、国際理解ということで、英語をきっかけに他の分野や他の教科に対する広がりともあり、読み物としても面白いと思いました。

先ほど御質問させていただいたとおり、単語数が700から800ぐらい少ないですが、先生方のほうで補助教材も使うので問題がないということであれば、東京書籍が良いと思いました。

○鴨川委員 私も東京書籍を選ばせていただいております。

幾つか理由があります。

まずは、内容面で価値の多様性に非常に留意した作りになっており、よく見るマララさんのお話だけでなく、登場人物に南アフリカの方や中国系のカナダ人が取り上げられています。これらは主たる登場人物だと思います。

それに加えて、ラクロスというスポーツはカナダの先住民族がルーツのスポーツであり、それが取り上げられています。英語が、単に英語圏、いわゆる欧米諸国だけの言語ではないということが分かる多様な内容になっているところが良いと思った点です。

これは2つ目になりますが、先ほど古笛先生もおっしゃった地球規模の課題について、英語のみならず教科横断的に学ぶことができる工夫が見られるということが、2つ目に良いと思った点です。

3つ目は、聞くことの割合が他発行者より少なく、取扱い語数が少ないことは確かに私も気になったのですが、学校訪問で中学校に伺ったときに、先生たちが非常にバランスよく、生き生きと授業を行っているように見えたので、その点は教科書だけではなく、授業で先生方がそれぞれの資質を生かして、総合的に取り組んでいただければ問題ないと思いました。

最後に、語数が少ないということは、裏を返せば東京書籍さんの本の見やすさにもつながっていると思いました。

分量がある程度絞られているということで、新宿区は多様なルーツを持つお子さんたちがいらっしゃって、学業達成度も当然多様であることで、英語が早いうちから嫌いになったり、差がつき過ぎたりすることを防ぐためには、語数が少ないことはデメリットというより、むしろ良い点になるのではないかと思います。

以上です。

○的場委員 私も東京書籍を選びました。

全体的に現代社会の諸問題に対する題材を扱っていたり、他教科との連携要素が取り入れられたりしており、言語活動を踏まえて自分の考えを伝えることができるようになってますし、さらに、イラストや写真も見やすく、大変よくできた教科書だと思います。

詳しく申し上げますと、まず、1年生の題材は学校生活に関連したものが多くて、

夏休み、冬休みの様子を伝え合うように促すのも良いですし、それから、オンライン通話なども時代に合った内容で評価できました。

2年生の教科書では、文化や歴史、ユニバーサルデザインについて理解を深めている内容も大変良いですし、特に、ホームステイでの国際交流体験の題材が良いなと思いました。と申しますのも、新宿区では友好都市のドイツベルリン市ミッテ区の青少年との派遣と受け入れを1年ごとに実施しておりまして、我が家も昨年ドイツの高校生を受け入れたのですが、海外との生活習慣や文化の違いを知っておいたり、それから、日本の習慣やマナーなどを伝えることができたりすることは、とても大切になってきますので、新宿区の青少年交流事業にも合った内容だと思い、高く評価できました。また、「Real Life English」では、どの内容も良かったのですが、特にシーン6の旅行者が電車の乗換えを尋ねる場面は、外国人観光客が増えた日本では覚えておくと役立つフレーズだと思い、そこも大変良いと思いました。

そして、3年生の教科書は、表紙の裏に「英語を使って共に生きよう」というメッセージがあるように、持続可能な世界のために課題を捉え、考えていくという深い学びになっている内容が、こちらも大変良いと思いました。

特に、エシカルファッションの題材からエシカルの取組について考える流れというのは、新宿区の消費生活展や、シンポジウムでも扱った内容ですので、区の事業とも合っている点で高く評価いたしました。

また、「A Mother's Lullaby」では広島について取り上げておりまして、こちらも新宿区で行っている親と子の平和派遣事業と関わる題材であるため、こちらも大変良いと思いました。

以上の理由で、世界とつながろうとする心を育むことができる東京書籍の教科書を選びたいと思います。

○星野委員 私も東京書籍の教科書を選ばせていただきました。

皆さん、的確に評価されていまして、英語の苦手な僕としては余り言うこともないのですが、少なくとも僕自身が辞書なしで全部の文章をさらっと読めたので、決して難しい文章は入っていないと思われまます。

あとは、各章にまとめとして「Activity」や、「Unit Activity」といった、復習や発展につながる設問があり、とても勉強しやすいと思いましたので、東京書籍にいたしました。

以上です。

○教育長 私も東京書籍にしました。

小学校からの振り返りが丁寧で、仮に苦手意識を持っていたとしても、もう一回中学校で頑張れるような作りになっていることと、話すことが最近重要視されてきていると考え、ペアワークやグループワークなどが採用される場面が多く設定されているのではないかと感じました。

また、他の委員もおっしゃっていましたが、英語をツールとして新たな気づきを展開するような構成にもなっており、工夫されているなと思いました。

というわけで、私も東京書籍にさせていただきました。

加えて御意見のある方がいらっしゃいましたら、お願いします。

〔発言する者なし〕

○教育長 特に無ければ、今までの協議の内容を確認させていただきます。

英語につきましては、本日の協議を踏まえ、皆様の総意といたしまして、東京書籍発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とすることでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

ここで外国語科調査委員会委員長には御退席をいただきます。ありがとうございました。

〔外国語科調査委員会委員長退席〕

○教育長 次に、音楽（一般）についての説明をお願いいたします。

○教科用図書検討委員会委員 それでは、音楽（一般）についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのは教育芸術社で、10校中9校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は、教育芸術社が総合評価でAでした。検討委員会では、教育芸術社をA評価といたしました。

その理由・意見として、「学びのコンパス」など、自分たちの表現を工夫し、話し合い、他者の思いと自分の思いを共有しながら生徒同士の協働的な学び合いができることが優れているなどの意見が上げられておりました。

また、検討委員会では、他発行者に関する意見として、教育出版は、生徒が実際に教科書に書き込んだり、生徒同士で対話したりする際の手立てとすることができる作りとなってい

るなどが良い点として上げられておりました。

最終的に、検討委員会として学校調査、調整委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が最も多く、調査委員会でも評価のよかった教育芸術社をA評価といたしました。

以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたらお願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 特に御質問がなければ、採択にふさわしいと考える教科用図書について各委員の御意見を確認させていただきます。年綱職務代理者から、お願いします。

○年綱委員 生徒たちがよく知っている歌手や演奏家のメッセージが多く掲載されているのですが、デジタルコンテンツでその方々の生の声が聞けるのは、音楽の世界を生徒たちが身近に感じるのではないかとまず思いました。

作品の中で、作詞者や作曲者の言葉も掲載されており、作品を深く理解することができると思いました。

歌い継いでいかなければならない「心の歌」や「歌い継ごう日本の歌」は、3年間共通のマークで印象に残るように工夫されていると思います。

各単元の様々なジャンルの作品は、それぞれ生徒たちが考えを話し合い、意見交換をするように促されており、各単元の作品の理解が深まるだけでなく、音楽を通し、主体性が育まれていくと思いました。

各ページにデジタルコンテンツがあるのですが、私は全部聞きました。聞いてみて、生徒が自ら意識をもち、表現し、音楽を楽しんでいって欲しいとつくづく感じました。

以上の点から、教育芸術社を選ばせていただきました。

○古笛委員 私も、結論としては教育芸術社にしました。

学校調査、調査委員会、検討委員会全て一致しているというところで、教員の使い勝手が良い教科書で、とても良いのだろうと思いました。

それを前提にしたところは正直なところですが、英語に続いて音楽も苦手ではありますが、読んでいて、確かにすごく面白かったです。両発行者とも、教育芸術社にしる、教育出版にしる、ポピュラー音楽を紹介しているのですが、教育芸術社は、R & B、ソウル、それからフュージョン、ファンクのような、いろいろな分野の関連を矢印で示しており、とても面白

くて、興味深く読ませていただきました。

それから、日本のポピュラーにしても、昭和の世代の流行や、ピンクレディーなどもたくさん紹介されており、きっと親子で読んでも楽しいだろうと思いつつ、選ばせていただきました。

○鴨川委員 私も、教育芸術社を選ばせていただきました。

まず一番魅力を感じたのが、アジアの諸民族の音楽を大きく載せている点です。

小学校の教科書採択のときも申し上げましたが、日本と世界というときに、日本と欧米の歌になりがちなところが、新宿区の多様性に鑑みますと、アジアの諸民族の音楽を取り上げることで、ここで生徒が盛り上がったなら良いなと思ったりもしました。

もちろん、もう一方の教育出版にも載っていたのですが、こちらのほうより魅力を感じました。

もう一つは、全ての楽曲に問いが設定されており、書き込みがかなり充実されている印象を教育芸術社に持ちました。

「学びのコンパス」で、問いと学びが対応しており、個人で学んだ後の書き込みもできずし、共同で話し合い活動をした後に書き込むという、どちらも想定されているような書き込みのページが良いと思った次第です。

もう一つ付け加えますと、1年生の68ページと69ページの「生活や社会の中の音や音楽」というページについて、身近なところの音から音楽につながると考えることができるのも良いなと思った点です。

以上です。

○的場委員 教科書を読み比べますと、本当にどちらも写真やイラストをふんだんに使用して、うまくイメージを膨らませながら楽しめる内容になっていますし、表現や鑑賞の学習においても生徒同士の学び合いができるようになっているので、大変悩みましたが、私は最終的には教育芸術社を選びました。

まず、理由を申し上げますと、細かく2つを比較したときに、日本と西洋の音楽史は、教育芸術社のほうがレイアウトが良かったのと、説明も簡潔で見やすくまとめられていたと思いました。

また、歌舞伎や文楽なども、写真の由来や紹介の仕方が心を惹かれるページになっていましたし、モルダウの曲も美しい写真と見やすい地図での解説が載っているのも、生徒たちが理解しやすい内容になっていると思いました。

そして、私が特に評価できた点は、「My Voice!」のページでして、1年生の教科書では、変声期の説明と変声期に心がけることが記載されているのが大変良いと思いました。

なぜかといいますと、先日、中学校を訪問しまして音楽の授業を見させていただいたときに、男子も女子も非常に生き生きと歌っていた姿に感動したんですけれども、後ろのほうであまり声を出していなかった男子生徒もいらっしゃいました。その生徒さんが、変声期を迎えていたとしたら、この「My Voice!」に書かれているような内容を本人も周りも理解しておく必要があると思ったので、とても良い内容だと思いました。

それから、私が中学生のときに合唱部に所属していたということもございまして、歌の指導を中心に見させていただきますと、2、3年生の教科書では声の響かせ方、それから、鼻濁音についても触れていましたし、サンタルチアをイタリア語でどう歌うのかというポイントが非常に分かりやすく説明されている点も、私の観点でございますが、大変評価できました。

さらに良いと思った点は、1年生と2、3年生の各々の特集のページで著作権について触れている点です。

この年代は、ルールを知らずに動画投稿サイト等にアップロードしてしまう可能性がありますし、例えば、この先、合唱祭への参加やコンサートを開催する場合、JASRACに申請する場合もございますので、早い段階で違法な行為を行わないように教えておくということは大変大切だと思ひまして、私は教育芸術社の教科書を選びたいと思います。

○**星野委員** 音楽については、楽譜は読めないけれども中学の頃はギターを弾いていた程度の人間ですので、余り得意ではないです。

そのため、詳しい話はできませんが、両方見比べて、親しみやすいということで教育芸術社が良いと思いました。親しみやすい曲が多くて、中学生で自分で演奏できる楽器というと、ピアノをやっている人はピアノであり、男子だとギターを始める時期だと思うんですけれども、ギターコードがついている曲が多くありました。そうすると、音楽の教科書に載っているものなのに、ギターで楽しく弾けるものがあると思いました。

あとは、細かいことですが、教育芸術社に「花は咲く」が載っておりまして、最近、能登半島の大きな地震がありましたけれども、その前の東日本大震災を忘れないためにも、この歌というのは教科書に残してほしい曲だと思いましたので、それが載っている教育芸術社にいたしました。

以上です。

○教育長 私も教育芸術社にさせていただきました。

「学びのコンパス」が、自分の気持ちだけでなく、ほかの人の思いですとか、考え・感じ方を気づかせるということで、同じものを見ても同じことを思ったりするとは限らないといったことで、多様性の部分にも近づくこともありますし、そうしたことを踏まえて、協働的な学びが促される取組にもつながるといったこともあります。

ほかの委員がいろいろなことをおっしゃっていただけだったので、私としてはそれぐらいのことしか言うことが残っていなかったので言わせていただきましたが、私も教育芸術社とさせていただきます。

というわけで、これまでの協議内容の確認をさせていただきますと、音楽（一般）につきましては、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、教育芸術社発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 それでは、そのように進めさせていただきます。

次に、音楽（器楽合奏）について説明をお願いいたします。

○教科用図書検討委員会委員 それでは、音楽（器楽合奏）についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのは教育芸術社で、10校中8校がA評価でした。

調査委員会の調査結果は、教育出版が総合評価でAでした。

検討委員会では教育出版をA評価といたしました。

その理由・意見として、生徒が楽器の基礎的な奏法を身に付けるという点で、写真が豊富かつ大きく取り上げられており、特に、篠笛、ギター、太鼓が分かりやすいなどの意見が上げられておりました。

また、検討委員会では、他発行者に関する意見として、教育芸術社は、現在、活躍している身近なアーティスト自身のコメントが掲載されていたり、諸外国の音楽が一目で分かるような写真が掲載されたりしているなどが良い点として挙げられておりました。

最終的に検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、調査委員会で評価のよかった教育出版をA評価といたしました。

以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたらお願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 特に質問はないようですので、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○年綱委員 こちらの器楽合奏も、私は全部のデジタルコンテンツを聞きながら教科書を拝見したのですが、私は、デジタルコンテンツがあることで、楽器の奏法がよく理解できるのではないかと思いましたが、自ら聞きながら練習ができて、技術の向上につながっていくのではないかなとも思いました。

最初のページに、子どもたちが中学で購入するアルトリコーダーや、小学校から使ってきたソプラノリコーダーについて詳しく説明されており、小学校で学んできた教材や、聞き慣れている曲を中学では深みのある演奏に変えていくことで、興味・関心度が上がっていくのではないかと思いました。

音楽（一般）と一緒に、「学びのコンパス」は、器楽合奏を通じて生徒たちの主体性が育まれていくと思います。

また、音楽（一般）で取り上げられている作品と共通している曲もあるので、授業で生徒たちが理解しやすいのではないかと考え、教育芸術社を選ばせていただきました。

○古笛委員 私も教育芸術社です。

これまでの私のスタンスから言うと、今回は学校調査と調査委員会・検討委員会の評価が分かれたので、とても迷いました。

一つは、音楽の場合は音楽の先生お一人なので、先ほど音楽（一般）で選んだ教科書と違う発行者であることがどうなんだろうかと、すごく感じました。

それから、音楽の授業を受ける子どもたちにとっても、同じ音楽なのにということで、違う発行者というのに対して違和感があるのではないかなと思いました。

AとBという形で評価は分かれており、写真が教育出版ほうが大きくて分かりやすいということだったのですが、私はどちらも違和感なく受け入れられました。

最後に、ギターのコード表のところは、指の写真が良いのかイラストが良いのか、これは中々判断が難しいと感じました。

先ほど音楽（一般）でもお話ししたとおり、身近な人が出てきています。教科書全般に関

して、身近な人が出てきていると何か不祥事を起こしたときに対応が難しいというところはあるのですが、今回、音楽に関しては、身近で活躍されている人が出てきているというのは、面白く読ませていただきました。ギターに関しては、テイラー・スウィフトやクラプトンが教科書に載る時代なんだということで、楽しく読ませていただきました。

最終的には、音楽（一般）と合わせた形の教育芸術社にいたしました。

○鴨川委員 私も古笛委員と理由も意見も全く同じで、教育芸術社と思っております。

内容につきましては、既に委員の先生方がおっしゃったところで、どちらも見やすいですし、楽器の奏法も私でも分かりやすいと思ったので、いずれも迷いましたが、学校評価がとりわけ高いという点を尊重して、その高いというのはなぜかと考えたときに、教育芸術社の音楽（一般）と揃えたほうが良いという意味の表れとも捉えることができるなと思った次第です。

ただ、もし教育芸術社にさせていただくのであれば、音楽（一般）のときに申し上げたように、できれば、もう少し多様な楽器が前面に出るような特集のページがあったりすると、新宿区の実情に合うような展開の仕方ができるようになるのかなと思ったりしました。

先ほど委員長がおっしゃっていましたが、幅広い楽器を知るような機会にこの教科書を通してなるということでしたので、欧米先進国以外の楽器が今以上に盛り込まれていると良いなどは思った次第です。

以上です。

○的場委員 調査委員会で評価が高かった教育出版と学校調査で評価が高かった教育芸術社の教科書は、どちらも生徒が楽しく学びやすい内容なので本当に大変悩みました。

ギターとキーボードコード表に関しては、家族の意見を聞いてみたところ、ギターを独学で練習している夫と息子は教育芸術社のイラストのほうが見やすく、指の位置が分かりやすいという意見でしたが、ピアノとバイオリンを習ったことがある私と娘は教育出版の写真のほうで分かりやすいと意見が分かれてしまいまして、ここでますます悩みました。

そこで、ほかの点で比較してみたときに、私は教育出版が非常に良いと思った点がございました。例えば、ギターの姿勢の構え方やストローク奏法が分かりやすい写真で説明されていました。それから、中学校で演奏することが多いソロに関しては、手元の写真が大変大きく載せられていてイメージが伝わりやすいですし、それから三味線のばちの持ち方も写真とともに丁寧に説明があるので、非常に分かりやすいページになっているのが評価できました。

そして、写真でいうと、特に太鼓の構え方と打ち方というのは、全身を載せていて、大変

イメージが湧きやすいですし、参考になるページだと思い、こちらも評価できました。

そして、リコーダーに関しては、小学校で習ったソプラノリコーダーとアルトリコーダーを分かりやすく比較しているのもよかったです。

そして、世界の楽器の紹介をされていて、より広い視野を持たせて、楽器の背景にある文化、それから伝統を考えさせる流れも評価できました。

以上の理由から、私は教育出版を選びたいと思います。

○**星野委員** 現場のことを考えると、音楽（一般）と音楽（器楽合奏）は、同じ発行者のほうがやりやすいのではないかと思います。私は教育芸術社を推したいと思っております。

ただ一つ、選択とは関係ないですが、ギターに関して、なぜクラシックギターを掲載したか、僕はすごく疑問です。音楽の時間を離れてクラシックギターを弾く人間というのはほとんどいないと思います。そのため、なぜフォークギターで教えないのかというのがあります。

もしクラシックギターを教えるのであれば、僕の個人的感想なのですが、ナルシソ・イエペスの「禁じられた遊び」など、ああいう壮大な曲を聞かせてあげるのが良いのではないかと思います。今後の発行者の対応に期待したいと思っております。

以上です。

○**教育長** 今回、調査委員会、検討委員会の評価と学校調査の評価が割れて、学校調査も8校Aつけているのが教育芸術社で、3校がAだったのが教育出版となり、評価が割れたんだなと理解しました。

教育出版のほうは、楽器の奏法に関する写真が豊富で大きいといったことや、「表現の仕方を調べてみよう」では、学習した楽器の特徴が比較できる点が特に良いと思いました。

教育芸術社は、楽器の奏法の写真で、角度などが工夫されていて見やすいといったことや、音楽（一般）との関連で展開できるのではないかと、そして、アーティストのコメントで生徒の関心を引き出す工夫もされているとことがあり、両発行者の評価が本当に拮抗しているということでしたが、音楽（一般）の関連性と学校調査の優位性を取り上げて、私は教育芸術社とさせていただきます。

ほかに御意見、よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** それでは、ほかに御意見がなければ、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行いたいと思います。

今回、音楽（器楽合奏）につきましては、本日の協議を踏まえまして、教育出版発行の教

科用図書と教育芸術社発行の教科用図書の2者それぞれ良いという御意見がありましたので、この2者を引き続き採択の対象となる教科用図書の候補として考えるということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**教育長** それでは、次回の教育委員会において、再度、最終的にこの2者から1者に絞るということで採択対象の候補を絞り込みますので、それまでに改めて皆様の御意見をまとめておいていただけますようお願いいたします。

ここで音楽科調査委員会委員長には御退席をいただきます。ありがとうございました。

〔音楽科調査委員会委員長退席〕

○**教育長** 次に、技術・家庭（技術分野）についての説明をお願いいたします。

○**教科用図書検討委員会委員** それでは、技術・家庭（技術分野）についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのは教育図書で、10校中5校がA評価でございました。

次にA評価が多かったのは東京書籍と開隆堂出版で、ともに10校中4校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は、教育図書が総合評価でAでした。

検討委員会では、教育図書をA評価といたしました。

その理由・意見として、別冊「スキルアシスト」が製作や育成に必要な基礎技能が丁寧に解説されている。また、実習において重要なポイントを写真で比較することができ、授業で使いやすい作りとなっているなどの意見が上げられておりました。

また、検討委員会では、他発行者に関する意見として、東京書籍は全ての編の章構成が、ガイダンスから始まり、問題解決まで、中学校3年間の見通しを持って学習に取り組める構成となっている。また、SDGsについても触れられている。

開隆堂出版につきましては、学習の節目で見方・考え方の定着を図るためのワークシートが設けられており、生徒の個別最適な学びの実現に役立てられるようになっているなど良い点として挙げられておりました。

最終的に検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調整でA評価が多く、調査委員会でも評価のよかった教育図書をA評価といたしました。

以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 特になければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認してまいります。

○年綱委員 エネルギー変換や情報分野など、技術で学ぶことが増えてきたなと思いました。

3者とも生徒が興味・関心をもって学んでいけるように分かりやすくまとめてくださっているし、本当にどの発行者が良いのか、優劣がつけ難かったです。

いろいろ見させていただいて、技能が詳しく分かる教育図書の別冊「スキルアシスト」は、実技や実習が多い技術では使いやすいと思います。社会に出たとき、困ったときに基礎的なことがまとめてあるので役に立つのではないかと思います。別冊があるという点、使いやすいという点から考え、座学と実習が別になっている教育図書を選ばせていただきました。

○古笛委員 私も最終的に教育図書です。

この3冊に関しては、学校評価はAをつけているのが5校と4校というところで、ほとんど変わりません。調査委員会と検討委員会、共にAをつけたのが教育図書でした。

私は技術を勉強したことがないので、初めて教科書を見させていただいて技術を勉強しているのですが、確かに3者とも、とても面白いです。だから、最終的には好みで選ぶしかないと感じました。

別冊があるということは、おそらく技術の場合、いろいろ作業したり実験をしたりするときに、手元に置いて使えるところで先生方が評価されていたため、別冊が今回はプラスに考えられると思いました。

また、以前の教科書採択の際は、別冊は紛失のおそれがあるという話もありましたが、そういった懸念もあまり挙がっていないようであれば、そういった点も踏まえて、最終的には教育図書にさせていただきました。

○鴨川委員 3冊とも古笛先生がおっしゃったとおり、どれも魅力的であり、好みの問題かなと思ったときに、私は一番好みとして良いなと思ったのが、教育図書の見開きのところ。技術ってどんな科目なのか、どんな教科なのかと思ったときに、テクノロジーなんだと。

「技術」と言われるより、「テクノロジー」と言われたほうが、何となく中学生には分かって、しかもそれが日常でどういう場所で見られるかというのを一見して分かるという最初の

ページが非常に魅力的でした。

また、先生方もおっしゃっているところで繰り返すまでもないかもしれませんが、別冊の「スキルアシスト」が実習のときに役に立つのだろうなという意味で、そのときにこの紙質に魅力を感じて、きっと最後まで破ったり壊したりしないで3年間使えると思ったりもしました。

以上から、教育図書が良いと思いました。

○**的場委員** どの教科書も生徒の興味・関心を引きつける内容と学びを深められる工夫があって、大変楽しく読ませていただきました。

私は、開隆堂出版と教育図書で迷いまして、開隆堂出版は、「テクノロジーに希望をのせて」という表紙なだけあって、まず巻頭ページでドラえものの秘密道具が現在の技術で実現しつつあることに触れていたり、それから、ある企業のヘアドライヤーが他社製品とどう違い、どのように製品開発を行っているのかを取り上げており、心を惹きつけられる作りになっていました。

ただ、「エネルギー変換の技術」のページで取り上げられているように、製品を実際を使用してみますと、最新の技術が必ずしも良いとは限らない点も押さえておく必要があると思っています。

その点において、教育図書の教科書では、プラス面とマイナス面を具体的に挙げさせて、今後、どのように情報技術と向き合っていくのかを深く考えさせる流れになっている点で、私は教育図書のほうが良いと思いました。

ほかにも良い点ございまして、まず、技術が小学校で学んできたことと関わっていて、それを中学校の学びで広げていこうとする導入が良いなと思いましたし、ところどころSDGsに触れていたり、それから、4コマ漫画で問題解決の流れを解説している点ですとか、実習に関しても、工程や道具について写真で分かりやすく説明されていましたし、設計計画シートが活用しやすそうな用紙になっている点も大変良いと思いました。

それから、ほかの先生方もおっしゃっていましたが、別冊になっている「スキルアシスト」が大変見やすい作りになっておりますので、非常に役立つ内容で、別冊資料がとても魅力的な教育図書を選びたいと思います。

○**星野委員** 私は技術を学びましたが、正直、私が学んだ技術よりも数段難しいことをやっており、私が学んだ技術と比較することは無理だと感じ、3者見させていただき、どれが一番見やすいかということを考えました。

まず、開隆堂出版と教育図書のどちらかで悩みました。

読んでいきますと、開隆堂出版は全般的に内容が詳しいです。酪農や林業に関してもかなり詳しい記載があり、都会に住んでいる人間に興味を引くという点では良いと思うのですが、果たして新宿に住んでいる人間がどれぐらいその道に進むかという問題を考えると、少々詳しく過ぎるのではないかと考えました。栽培程度だと、家庭の庭木などにできるため、詳しいことは良いことですが、その辺が詳しく過ぎるのではないかと思いました。

技術の製作や電気回路に関しましても、本当に詳しいのですが、ここまで要るのかというところまで載っています。例えば、電子回路でコンデンサは中学生で要るのかなど、考えてしまいました。

その点で、普通の工作等をするのに必要な最低限の技術が分かりやすく載っているのは教育図書だと思い、教育図書を選ばせていただきました。

以上です。

○**教育長** 学校評価を見てみると、本当に拮抗しておりまして、5校が教育図書、東京書籍と開隆堂出版が4校ということで、本当に現場でも拮抗したんだなと感じました。

別冊があるのは教育図書のみであり、委員長の説明の中でもありましたけれども、それだけ持ってどこかへ行って実習をするときには便利だと思われる。

それから、それを見て、基礎技能が丁寧に解説されているところもありましたので、教育図書ということに私もさせていただきます。

ということで、この協議内容の確認をさせていただきます。

技術・家庭の技術分野につきましては、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として教育図書発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とすることによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** それでは、そのように進めたいと思います。

次に、技術・家庭（家庭分野）についての説明をお願いいたします。

○**教科用図書検討委員会委員** それでは、技術・家庭（家庭分野）についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

A評価が多かったのは東京書籍と教育図書で、共に10校中4校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、教育図書が総合評価でAでした。

検討委員会では、教育図書をA評価といたしました。その理由・意見として、18歳成人

を見据え、ますます消費者教育の視点は重要と考え、フェアトレードについての仕組みや正しい理解を身に付ける工夫が見られるなどの意見が挙げられておりました。

また、検討委員会では、他発行者に関する意見として、東京書籍は家族についての学びを重視し、単元構成に工夫が見られる。また、SDGsについても触れられている。そして、調理の単元についても工夫が見られるなどが良い点として挙げられておりました。

最終的に検討委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告などを踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価が多く、調査委員会でも評価の良かった教育図書にA評価といたしました。

以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。

御質問がありましたらお願いいたします。

○**星野委員** 先ほどの写真について、御質問させていただきます。

細かい説明は、先ほどと同じですので省略させていただきますが、この件について、検討委員会の中でどのような意見が交わされたのか、例えば、学校現場からの指摘はなかったのか、お尋ねしたいと思います。

○**教科用図書検討委員会委員** 検討委員会の中では、本ページのこの部分に関しては、特段の議論はございませんでした。

ただ、このページの趣旨といたしましては、記載のとおり大人と一緒にというところがテーマかと思います。

また、先ほど触れていただきましたけれども、55ページには情報機器の遊び方についての記載があり、教員が指導を行う上で、「おとながいっしょに遊ぶ」、「時間やルールを決めて遊ぶ」などの点が記載されておりますので、記載のとおり発達段階に合わせて周囲の環境を整えていくこと、こういった大人の責任も増えているところかと思います。

また、学習指導要領を確認いたしますと、幼児の遊びについては、市販のおもちゃ、遊具、絵本、こういったものを用いた遊び、こういったことを通して様々な遊びがあることに気づくようにするという記載がございます。写真が良いか悪いかというところはまた別として、こういった趣旨のものであると把握したところでございます。

以上でございます。

○**星野委員** 説明ありがとうございました。

例えばの話なのですが、今後、この写真が発行者として削除される、または現場で使うに

当たって、新宿区だけかもしれませんが、シール等を貼って見えなくするなど、そういうことは、著作者の権利の問題もあると思いますが、可能かどうか、教えていただけますか。

○教科用図書検討委員会委員 先生が、今、触れていただいたように、著作者の権利等の問題もありますので難しいかと思えます。

以上でございます。

○教育長 一方で、この 52 ページの「デジタルおもちゃ」の写真だけを見た子どもは、こんなことを教科書でも推薦しているんだ、もっとスマホで遊んでいいんだ、使っていていいんだと思わせてはいけないので、新宿区においては、この 55 ページ「情報機器での遊び」とセットで必ず教える指導はできるのでしょうか。

○教科用図書検討委員会委員 55 ページとセットで指導するということはもちろんですし、先ほど調査委員長からもお話があったかと思いますが、情報モラル教育に関しては様々な形で進めているところですので、家庭科の中ではもちろんですし、そういったところでも指導は継続してまいりたいと考えております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに御質問ございますでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認させていただきたいと思えます。

○年綱委員 3者ともよく取材した内容で、現状に即していると思ったのが感想です。

開隆堂出版の「1日にとりたい食品と分量」は現実的でびっくりしました。

先ほどからお話があるように、教育図書の幼児期の子ども様子は本当に具体的で分かりやすく、私には孫がいるのですが、今の時代、こういうふう子どもたちが育っているんだなど、この部分を見て分かりました。

私は針仕事がすごく苦手です。東京書籍の被服実習は分かりにくい手順が分かりやすくはっきりと図解されているので、とてもよく理解できました。

家庭分野も、技術分野の「スキルアシスト」のような実習の手順、実習例、食品成分表などをまとめてくださるものがあれば、実技のときに授業がはかどるのではないかと思います。今の段階でそういう別冊がないので、教科書の最初のほうに折り込みページを掲載し、目ばかり、手ばかりの手法を取り入れて工夫がされている点を見ると、私は東京書籍が良いのではないかと思います、東京書籍を選ばせていただきました。

○古笛委員 私は教育図書です。

まず、家庭科なのですが、私自身が一番よく理解できると思ったのが、消費者問題の範囲です。

各発行者ともそれぞれ詳しく丁寧に書いていただいていたのですが、特に教育図書は目当ての後にキーワード、解説を入れております。技術分野ではぴんと来なかったのですが、家庭の消費生活の範囲を見ていくと、キーワードがあり、それを踏まえて教科書を読むと、すごく分かりやすく、頭に入ってきやすいというところと、解説については、本当にこんなところまで中学で教えているんだということまで分かり、とても理解しやすかったため、教育図書が良いと思いました。

さらに、家庭科に関してですが、私自身は中学を卒業して家を出ましたが、そのときに持っていった教科書は家庭科の教科書だけでした。ほかの教科書は全部置いていったのですが、独り暮らしをするに当たって、家庭科で、針仕事、御飯作るとき、それから、意外と何を食べて良いかというところで、6つに分かれている食品群の範囲が卒業してからもすごく役に立ちました。

そういう意味で、教育図書の「6つの基礎食品群」のところですが、もう少し固い紙だったら良かったなと思いました。東京書籍が厚紙になっていたのも、もう少し固いと良かったと思ったのですが、内容的にはすごく分かりやすくなっていたので、教育図書で良いと思いました。

○鴨川委員 私も教育図書を選ばせていただいております。

幾つかあるんですが、先に星野先生がおっしゃっていた「デジタルおもちゃ」の写真についてですが、私はむしろこれはあった上で子どもたちに考えさせるぐらいのほうが、今の学びには合っていると思っています。これが良いのかどうか、ここを解決、これは問題だと思うのであれば、これを解決するためにはどうしたらよいのか。

今、新宿区の子どもがスマートフォンやタブレットなどを小さいときから見ているのは、残念なことに事実であるため、それを事実として捉えた上で、中学生の学びは、ここから自分が幼児に携わる仕事に就くことをイメージしたり、どのように育ててもらったか振り返ったりするということであって、自分自身が幼児ではなく、それを俯瞰して捉えて考えるというところが家庭科の学びなのではないかと思っています。そのため、ここをむしろ隠さないうで見せて学べば、より良い問題解決型の学びになるのではないかと思います。

星野先生がそういうところを捉えて学びにつなげるというところを御指摘なされたのは、

流石だと感じました。私がこれから言うコメントは、本当に取るに足らないものですが、申し上げます。

教育図書が良いと思ったのは、ジェンダーに配慮した作りというところでは、制服にストラックスを選べるような雰囲気を見せていたり、あるいは「センパイに聞こう！」で保育士の方が掲載されていますが、比較的多様な性が見えるところなどが良いと思いました。

また、実習が命の家庭科ですので、料理一つを取っても市販の料理本のように手順が非常に分かりやすいということで、料理が得意ではない生徒にもとても分かりやすいと思ったことと、さりげなく巻末に「学習シール」があります。別冊はないものの、この学習シールのワークは盛り上がりそうだったことです。

以上から、教育図書を選ばせていただきました。

#### ○的場委員 私も教育図書を選びました。

先ほど鴨川先生も触れておりました、「デジタルおもちゃ」の写真について触れさせていただきます。先生がおっしゃっていたように、本当に子どもたちに考えさせるきっかけになる写真かと思っています。

スマートフォンを操作したり、タブレット端末を操作したりすることが、デジタルネイティブにとっては当たり前であるため、逆に、この写真を載せないと、昭和の教科書とあまり変わらなくなってしまいます。あえて今の時代をアピールする上では、これを載せることに意義があり、それを先生方、保護者とともに考えていくことに意味があると思っています。

私が選んだ理由を申し上げますと、まず、日々の生活や行動は様々なことにつながっているということを前提として、暮らしに関わる話題や身近な問題を取り上げて学びを深めていくような構成になっていたり、生徒同士が話し合いたくなるような写真を載せていたり、とてもよくできた教科書だと思いました。

具体的に良かった点を申し上げますと、「消費生活・環境」のテーマに関しましては、新宿区でも消費生活就労支援課が推進している内容であり、生徒たちが18歳成人を見据えて、正しい理解を身に付けて自分事として考えていく教材は大変有効だと思いました。

「エシカル消費」について取り上げて、児童労働の問題やラナプラザの悲劇からファストファッションを問題視する内容は、新宿区の消費生活シンポジウムでも話されていた事柄と同じで大変高く評価できました。

また、製作に関しては、布を使って製作する工程が大変見やすく分かりやすく掲載されていて、こちらも良いと思いました。

そして、調理に関するページがとても素晴らしくて、実習例の手順が縦に並べられて、写真とともに分かりやすく書かれており、成功するためのポイントだけではなく、失敗したときはその原因も考えさせるなどの工夫が見られたページ作りなどがとても良いと思いました。

また、本当に料理本のような出来栄で、中学卒業後も役に立つ内容であるため、親子で使用できる資料として、技術分野とともに、ぜひ別冊にさせていただきたいと私は思っております。

以上の理由から教育図書を選びたいと思います。

○星野委員 子どもがデジタル機器を使うということは、今、世間一般で行われていることではありますが、先ほど述べた理由で、避けるべきことという意見のほうが多いですし、自分自身もそう思っております。

私の周囲には、少なくとも子どもにスマートフォン等を与えることを正しいことと思っていない人が多いため、試しに、「デジタルおもちゃ」の写真を見せて、55 ページに「情報機器での遊び」の記載があるが、どう思うかと聞いた場合、ほぼ 100%の方が、「デジタルおもちゃ」の写真のインパクトが強過ぎて、「情報機器での遊び」の記載はおまけみたいなものだという意見がほとんどでした。

その辺、教員がどう誘導していただけるかどうかは分からないのですが、「デジタルおもちゃ」の写真は本編にあるため、私にとっては、たった1枚の写真ですけれども、大きな問題だと思っております。

少なくとも他発行者の教科書を見る限りは、東京書籍ではデジタルはそういうところに入っておりません。

また、開隆堂出版を見る限り、デジタルが入っていないのに加えて、メディア接触について否定的なコメントがついております。

子どもにスマートフォンを見せるという行為は、少なくとも肯定できる行為ではないと考えております。よって、少々厳しい言い方になりますが、私自身はこれが載っている時点で教育図書の教科書を評価から外しました。

ほかの2者について検討させていただいたのですが、両者とも特に劣る点等はあまり見かけられませんでした。

東京書籍に関しては、単元末に練習問題が多くあり、料理の写真等が少ないかな、小さいかなと思いましたが、二次元コードを読み込むと、中にちゃんと入っており、豊富な材料と

なっております。

開隆堂出版は、子どもの遊びにおけるメディア接触について否定的なコメントがあるとともに、睡眠に関して光が良くないというコメントも入っており、医者から見ると子どもの生活について重要なポイントがところどころに載っています。

あとはヤングケアラーの記載もあり、今の中学生に読ませるには良い内容が多いなと思いました。

ということで、私は開隆堂出版を選ばせていただきました。

以上です。

○**教育長** 私は、結果としましては、教育図書が良いと思いました。

巻頭で「年中行事」を出したり、「世界の衣食住」、「ガイドダンス」の「家庭分野の学習と社会のつながり」を掲載したりすることで、これから家庭分野に取り組んでいこうといった展開をしていると思いました。また、実習例の手順が明確に示されていました。

それから、どうしてこうなったのか、失敗しがちな例を出しているところが面白いと思いました。失敗した明確な理由を言ったほうが生徒も納得しやすいと思いました。

また、日々の暮らしに関わる話題や、消費者教育などについても豊富に取り上げられており、中学3年生で学ぶとすれば、3年後にはもう成人で、保護者の承諾なく契約ができるようになってしまう年齢です。そのため、15歳が早めかどうか、遅いかもかもしれませんけれども、少なくともその時点で、一旦、消費者教育を受けられることは良いと思いました。

というわけで、私は教育図書にさせていただきました。

特に追加の御意見はよろしいですか。

採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みですが、技術・家庭の家庭分野については、東京書籍発行の教科用図書、教育図書発行の教科用図書、開隆堂出版発行の教科用図書で、それぞれ皆様の御意見がありましたので、この3種全てが教科用図書の候補として考えるということでもよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**教育長** それでは、次回の教育委員会において最終的に1種に採択対象の候補を絞り込みたいと思いますので、それまでに皆様の御意見をまとめておいていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

ここで技術・家庭科調査委員会委員長には御退席をいただきます。ありがとうございました。

[技術・家庭科調査委員会委員長退席]

○教育長 以上で、本日の種目ごとの質疑と採択対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了いたします。

本日までの協議で、まず、音楽の器楽合奏について、教育出版発行の教科用図書と教育芸術社発行の教科用図書は優れているという皆様の御意見でありました。

もう一つ、技術・家庭。今行いました家庭分野につきましては、東京書籍発行の教科用図書、教育図書発行の教科用図書、開隆堂出版発行の教科用図書が優れているといった皆様の御意見でした。

この2種目につきまして最終的に採択対象の候補をそれぞれ1種に絞り込みたいと思いますが、日を改めまして、7月29日に臨時会を開催いたしまして絞り込みを行いたいと思います。

いかがでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 異議なしということで、それでは、7月29日の臨時会で最終的に採択対象の候補を1種に絞り込みたいと思います。

以上で本日の協議は終了いたしますが、事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

---

◎ 閉 会

○教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

---

午後 3時30分閉会